

参 考 资 料

参考資料

・川崎市市立病院の経営分析

川崎市市立病院の過去3ヶ年の財務数値推移、他の公立病院・同規模私立病院との比較という観点から分析を行った。

1. 過去3ヵ年（平成8年度、9年度、10年度）の財務数値推移

川崎市立川崎病院（以下「川崎病院」という。）川崎市立井田病院（以下「井田病院」という。）の両病院とも、平成10年度は大きな病院体制の変化（川崎病院は新病棟への移行開始、井田病院はかわさき総合ケアセンター開設）があり、収益、支出面における単純比較が難しいと考えられるが、病院事業の運営状況がどのようにあるのかを俯瞰するという形で、過去3ヵ年の収支状況を比較する。

なお、数値の出所は、両病院が年度ごとに刊行している病院年報によっている。

病床数当たりの経営効率を比較するに当たっては、比較対象病院、川崎病院、井田病院とも稼働病床数当たりの数値を算出した。

また、以下で分析した収支には、川崎市の位置付けに沿った医療行為を行った結果、発生した不採算相当部分及びそれに対する一般会計繰入金が含まれている。しかしながら不採算相当部分に関する詳細な資料がなく、それを除いての分析が難しいことから、ここでは、不採算相当部分及び一般会計繰入金を含めた状態で収支の比較を行った。

両病院ともに、病院事業収益、医業収益、医業外収益、病院事業費用、医業費用、医業外費用と収益面、支出面のどの部分に関しても増加傾向にある。

病院事業収支では、両病院ともに平成8年度、9年度はほぼ収支均衡していたが、平成10年度ではそれぞれ川崎病院が694百万円、井田病院が169百万円の赤字を計上した。

医業収支においては、両病院とも毎年赤字を計上しており、平成10年度の赤字額は過去3年間のうち最大となっている。

過去3ヵ年のうち、直近の平成10年度は両病院ともに、最も厳しい経営環境にあったといえる。

表 -1 「川崎市立病院の過去3年間の収支の推移」

川崎病院						井田病院					
	実績値(百万円)			対前年比			実績値(百万円)			対前年比	
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成9年度	平成10年度		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成9年度	平成10年度
病院事業収支	5	3	-694	-	-	5	2	-169	-	-	
医業収支	-1,623	-1,586	-2,870	-	-	-1,641	-1,730	-1,974	-	-	
病院事業収益	13,520	14,147	15,349	104.6%	108.5%	7,942	8,165	8,238	102.8%	100.9%	
医業収益	11,445	11,891	12,241	103.9%	102.9%	6,048	6,142	6,148	101.6%	100.1%	
医業外収益	2,072	2,255	3,106	108.9%	137.7%	1,894	2,020	2,089	106.6%	103.4%	
特別利益	3	1	2	29.0%	213.7%	0	3	1	2411.1%	32.9%	
病院事業費用	13,515	14,144	16,043	104.7%	113.4%	7,937	8,163	8,407	102.8%	103.0%	
医業費用	13,068	13,476	15,111	103.1%	112.1%	7,689	7,873	8,121	102.4%	103.2%	
医業外費用	413	617	860	149.4%	139.5%	233	271	273	116.3%	100.6%	
特別損失	34	50	71	149.7%	142.0%	16	20	13	126.0%	65.1%	

出所)川崎病院・井田病院病院年報

(注) 病院事業収支 = 病院事業収益 - 病院事業費用

医業収支 = 医業収益 - 医業費用

川崎病院

収支の推移

川崎病院の収支状況は前述の通り、病院事業収支は平成8、9年度ではほぼ均衡し、平成10年度は赤字であった。医業収支についても過去3年間赤字基調であり、平成10年度は赤字幅が拡大している。

また、川崎病院は平成10年11月24日より新病棟に移行し、平均稼働病床数が582床から682床へ増

加するなど、病院の体制が変化している。

表 - 2 「川崎病院の収支の推移」

川崎病院	平成8年度		平成9年度			平成10年度		
	実績(千円)	対医業 収益比率	実績(千円)	対医業 収益比率	対前年比	実績(千円)	対医業 収益比率	対前年比
病院事業収益	13,519,842	118.1%	14,146,884	119.0%	104.6%	15,348,724	125.4%	108.5%
医業収益	11,445,409	100.0%	11,890,637	100.0%	103.9%	12,240,942	100.0%	102.9%
入院収益	6,386,488	55.8%	6,454,591	54.3%	101.1%	6,742,543	55.1%	104.5%
外来収益	3,841,864	33.6%	3,970,465	33.4%	103.3%	3,996,574	32.6%	100.7%
その他	1,217,057	10.6%	1,465,581	12.3%	120.4%	1,501,825	12.3%	102.5%
医業外収益	2,071,570	18.1%	2,255,417	19.0%	108.9%	3,106,008	25.4%	137.7%
他会計補助金	753,731	6.6%	836,056	7.0%	110.9%	1,179,644	9.6%	141.1%
補助金	19,993	0.2%	15,628	0.1%	78.2%	11,316	0.1%	72.4%
負担金交付金	1,218,070	10.6%	1,317,331	11.1%	108.1%	1,832,042	15.0%	139.1%
その他	79,776	0.7%	86,402	0.7%	108.3%	83,006	0.7%	96.1%
特別利益	2,863	0.0%	830	0.0%	29.0%	1,774	0.0%	213.7%
病院事業費用	13,514,765	118.1%	14,143,614	118.9%	104.7%	16,043,039	131.1%	113.4%
医業費用	13,068,304	114.2%	13,476,345	113.3%	103.1%	15,111,237	123.4%	112.1%
給与費	7,059,907	61.7%	7,309,184	61.5%	103.5%	7,360,338	60.1%	100.7%
材料費	3,784,370	33.1%	3,980,825	33.5%	105.2%	3,932,850	32.1%	98.8%
経費	1,709,525	14.9%	1,714,524	14.1%	100.3%	2,241,864	18.3%	130.8%
減価償却費	477,869	4.2%	441,543	3.7%	92.4%	426,786	3.5%	96.7%
資産減耗費	2,140	0.0%	3,386	0.0%	158.2%	1,125,143	9.2%	33229.3%
研究研修費	34,493	0.3%	26,883	0.2%	77.9%	24,256	0.2%	90.2%
医業外費用	412,817	3.6%	616,919	5.2%	149.4%	860,304	7.0%	139.5%
特別損失	33,644	0.3%	50,350	0.4%	149.7%	71,498	0.6%	142.0%
病院事業収支	5,077	0.0%	3,270	0.0%	-	-694,315	-5.7%	-
医業収支	-1,622,895	-14.2%	-1,585,708	-13.3%	-	-2,870,295	-23.4%	-
出所)川崎病院病院年報								

収益内訳

病院事業収益は平成9年度が対前年比で627,042千円増加（対前年比104.6%）、平成10年度が対前年比で1,201,840千円増加（対前年比108.5%）という伸びを見せている。

病院事業収益の内訳を見ると、前述の通り医業収益、医業外収益ともに毎年増加している。

医業収益においてさらに詳細項目を見てみると、入院収益、外来収益、その他収益ともに増加している。これは新病棟に移行したことによる増床、施設の充実、医療体制の充実によるところが大きいと思われる。

医業外収益の詳細項目は、他会計補助金、負担金交付金が平成9年度、10年度と高い対前年比伸び率（平成9、10年度の対前年比伸び率は、他会計補助金：10.9%、41.1%、負担金交付金：8.1%、39.1%）を示している。これら2項目は他の医業外収益の科目に比べ、金額が大きく、医業外収益全体の伸び率（8.9%、37.7%）を押し上げている。

収益全体における医業収益と医業外収益の構成比率を比較してみると、医業外収益が過去3カ年においてその割合を大きく伸ばしている。また金額での伸びも医業外収益の方が大きい（平成8年度から平成10年度にかけて、医業収益は795,533千円増加、医業外収益は1,034,438千円増加）。

費用内訳

病院事業費用全体としては、平成9年度は対前年比で628,849千円増加（前年比104.7%）、平成10年度は対前年比で1,899,425千円増加（対前年比113.4%）している。

内訳についてみると、医業費用は平成9年度は前年比において金額的に大きな変動はなく、全体としては微増であった。しかし平成10年度は、経費の増加（527,340千円）と資産減耗費の増加（1,121,757千円）があったため、医業費用は大きく増加した（対前年比112.1%）。資産減耗費の増加は平成10年度の新病棟移行に伴う固定資産の除却損によるものである。また、医業外費用も大幅に増加しており、金額的にも平成9年度に約200,000千円、平成10年度に約250,000千円増加しているが、これらの費用の増加は新病棟建設のための企業債の支払利息である。

貸借対照表

表 -3 「川崎病院貸借対照表の推移」

川崎病院	(単位:千円)				(単位:千円)		
	平成8年度	平成9年度	平成10年度		平成8年度	平成9年度	平成10年度
固定資産	11,011,076	22,884,132	38,848,679	固定負債	-	-	-
有形固定資産	11,008,631	22,881,909	38,811,745	他会計借入金	-	-	-
土地	25,542	25,542	25,542	流動負債	2,217,130	6,849,961	1,540,615
建物	3,385,078	3,263,705	33,077,036	一時借入金	-	-	-
構築物	21,868	19,769	65,989	未払金	1,891,931	6,434,012	1,179,769
機械備品	1,447,262	1,777,643	5,078,097	未払費用	304,710	395,473	340,359
車両	1,100	955	810	その他流動資産	20,489	20,476	20,487
その他有形固定資産	397	386	258	負債合計	2,217,130	6,849,961	1,540,615
建設仮勘定	6,127,384	17,793,909	564,013	資本金	16,391,187	28,121,693	44,842,897
無形固定資産	2,445	2,223	36,934	自己資本金	8,559,585	8,750,046	8,750,047
流動資産	3,626,346	8,448,251	3,152,967	借入資本金	7,831,602	19,371,647	36,092,850
現金預金	1,366,005	5,478,443	231,022	企業債	7,831,602	19,371,647	36,092,850
未収金	2,166,673	2,914,560	2,859,532	剰余金	-3,970,895	-3,639,271	-4,381,865
貯蔵品	73,568	35,148	42,313	資本剰余金	423,023	751,378	703,100
前払費用				受贈財産評価額	28,256	27,138	24,189
その他流動資産	20,100	20,100	20,100	補助金	394,767	724,240	678,911
資産合計	14,637,422	31,332,383	42,001,646	欠損金	-4,393,918	-4,390,649	-5,084,965
				当年度未処理欠損金	-4,393,918	-4,390,649	-5,084,965
				資本合計	12,420,292	24,482,422	40,461,031
				資本・負債合計	14,637,422	31,332,383	42,001,646

出所)川崎病院病院年報

貸借対照表についてみると、資産合計が大幅に増加しているが、これは川崎病院の新病棟建設に伴うものである。また、現金預金は大幅に減少しており、資産全体に占める現金預金の割合は平成9年度の17.5%から、平成10年度は0.6%と減っており、231,022千円となった。

また、多額の企業債の発行が行われている（平成8～10年度にかけて28,261,248千円増加）。

井田病院

収支の推移

井田病院の収支状況は、病院事業収支では平成8、9年度はほぼ均衡、平成10年度は赤字である。医業収支は過去3年間赤字であり、年々赤字額が増加している。

病院事業収益全体としては平成9年度は対前年比で223,365千円増加（前年比102.8%）、平成10年で72,283千円増加（対前年比100.9%）という伸びを見せている。病院事業費用全体としては平成9年度は対前年比で226,032千円増加（対前年比102.8%）、平成10年度は対前年比で243,403千円増加（対前年比103.0%）となっており、医業費用、医業外費用とも増加している。病院事業収益が伸びているものの、一方で病院事業費用がそれを上回って伸びているため病院事業収支の改善に至っていない。

井田病院では、平成10年10月よりかわさき総合ケアセンター開設に伴い緩和ケア病棟（20床）を稼働させると同時に、稼働病床を増加させており（平成10年9月時点で稼働病床数420床、10月より483床）病院の体制が変化している。

表 - 4 「井田病院の収支の推移」

井田病院	平成8年度		平成9年度			平成10年度		
	実績(千円)	対医業 収益比率	実績(千円)	対医業 収益比率	対前年比	実績(千円)	対医業 収益比率	対前年比
病院事業収益	7,941,938	131.3%	8,165,303	132.9%	102.8%	8,237,586	134.0%	100.9%
医業収益	6,048,037	100.0%	6,142,149	100.0%	101.6%	6,147,624	100.0%	100.1%
入院収益	3,585,453	59.3%	3,607,283	58.7%	100.6%	3,629,594	59.0%	100.6%
外来収益	2,232,121	36.9%	2,290,969	37.3%	102.6%	2,222,458	36.2%	97.0%
その他	230,463	3.8%	243,897	4.0%	105.8%	295,572	4.8%	121.2%
医業外収益	1,893,757	31.3%	2,019,682	32.9%	106.6%	2,088,818	34.0%	103.4%
他会計補助金	591,282	9.8%	851,021	13.9%	143.9%	878,093	14.3%	103.2%
補助金	1,136	0.0%		0.0%			0.0%	
負担金交付金	1,260,130	20.8%	1,126,002	18.3%	89.4%	1,159,082	18.9%	102.9%
その他	41,209	0.7%	42,659	0.7%	103.5%	51,643	0.8%	121.1%
特別利益	144	0.0%	3,472	0.1%	2411.1%	1,144	0.0%	32.9%
病院事業費用	7,937,421	131.2%	8,163,453	132.9%	102.8%	8,406,856	136.7%	103.0%
医業費用	7,688,572	127.1%	7,872,534	128.2%	102.4%	8,121,182	132.1%	103.2%
給与費	4,337,709	71.7%	4,396,695	71.6%	101.4%	4,574,141	74.4%	104.0%
材料費	1,991,673	32.9%	1,989,509	32.4%	99.9%	2,066,717	33.6%	103.9%
経費	961,441	15.9%	1,029,313	16.8%	107.1%	1,064,510	17.3%	103.4%
減価償却費	370,124	6.1%	381,414	6.2%	103.1%	390,354	6.3%	102.3%
資産減耗費	2,069	0.0%	54,494	0.9%	2633.8%	8,741	0.1%	16.0%
研究研修費	25,556	0.4%	21,109	0.3%	82.6%	16,719	0.3%	79.2%
医業外費用	233,260	3.9%	271,277	4.4%	116.3%	272,894	4.4%	100.6%
特別損失	15,589	0.3%	19,642	0.3%	126.0%	12,780	0.2%	65.1%
病院事業収支	4,517	0.1%	1,850	0.0%	41.0%	-169,270	-2.8%	-
医業収支	-1,640,535	-27.1%	-1,730,385	-28.2%	105.5%	-1,973,558	-32.1%	-

出所)井田病院病院年報

収益内訳

収益の内訳では、平成9年度、10年度とも医業収益の対前年比は101.6%、100.1%とほぼ横ばいである。そのうち外来収益は平成10年度に減少に転じている（平成9年度対前年比102.6%、10年度対前年比97.0%）。それに村し入院収益は若干増加している（平成9年度対前年比100.6%、10年度対前年比100.6%）。

また医業外収益は平成9年度、10年度とも対前年比106.6%、103.4%で増加している。詳細項目についてみると、平成9年度は、負担金交付金が対前年度で約100,000千円減額したが、他会計補助金が約250,000千円増加したため、医業外収益全体としては増加した。平成10年度は他会計補助金、負担金交付金ともに増加している。

費用内訳

費用の内訳では、医業費用においては給与費が平成9年度、10年度において、前年比101.4%、104.0%と増加している。材料費は平成9年度は横ばいであったが、10年度には対前年比3.9%の増加、経費は平成9年度、10年度は対前年比107.1%、103.4%となっている。また費用全体に占める割合は小さいものの、平成9年度は平成8年度、10年度と比較して多額の資産減耗費が計上されているが、これはかわさき総合ケアセンターの着工に伴う旧病棟の固定資産除却損によるものである。

医業外費用は平成9年度に16.3%増加しているが、これは、かわさき総合ケアセンターの着工に伴う企業債の支払利息である。

貸借対照表

表 - 5 「井田病院貸借対照表の推移」

井田病院 (単位:千円)				(単位:千円)			
	平成8年度	平成9年度	平成10年度		平成8年度	平成9年度	平成10年度
固定資産	4,761,858	5,103,710	5,653,198	固定負債	-	-	-
有形固定資産	4,761,797	5,103,649	5,653,137	他会計借入金	-	-	-
土地	254,633	254,633	254,633	流動負債	1,469,996	1,123,216	1,108,156
建物	3,237,513	3,362,761	4,141,492	一時借入金	-	-	350,000
構築物	99,313	139,174	154,792	未払金	1,251,858	793,306	392,021
器械備品	1,139,158	1,087,627	1,041,213	未払費用	208,095	319,796	356,084
車両	1,184	1,145	1,145	その他流動資産	10,043	10,114	10,051
その他有形固定資産	1,383	1,301	1,219	負債合計	1,469,996	1,123,216	1,108,156
建設仮勘定	28,613	257,008	58,643	資本金	9,052,978	9,442,217	9,797,327
無形固定資産	61	61	61	自己資本金	6,692,962	6,870,862	6,870,862
流動資産	1,489,978	1,194,057	866,172	借入資本金	2,360,016	2,571,355	2,926,465
現金預金	105,382	10,233	16,264	企業債	2,360,016	2,571,355	2,926,465
未収金	1,325,869	1,124,460	804,064	剰余金	-4,271,138	-4,267,665	-4,386,114
貯蔵品	48,877	49,514	35,778	資本剰余金	267,142	268,765	319,585
前払費用	-	-	216	受贈財産評価額	45,511	45,511	47,848
その他流動資産	9,850	9,850	9,850	補助金	221,631	223,254	271,737
資産合計	6,251,836	6,297,767	6,519,370	欠損金	-4,538,280	-4,536,430	-4,705,699
				当年度未処理欠損金	-4,538,280	-4,536,430	-4,705,699
				資本合計	4,781,840	5,174,552	5,411,213
				資本・負債合計	6,251,836	6,297,768	6,519,369

出所)井田病院病院年報

井田病院の貸借対照表についてみると、川崎病院と同様に固定資産が増加しているが、このうち建物は平成10年度に開設された、かわさき総合ケアセンター建物である。

現金預金に関しては、平成10年度期末現在16,264千円、資産合計に対する割合が0.2%である。

また、企業債（平成8年度から10年度にかけて566,449千円）及び一時借入金（350,000千円）が増加している。

なお、平成10年度における川崎市病院事業の損益計算書及び貸借対照表は以下のとおりである。

平成10年度川崎市病院事業損益計算書
(平成10年4月1日から平成11年3月31日まで)

(単位：千円)

1	医 業 収 益		
	(1) 入 院 収 益	10,372,136	
	(2) 外 来 収 益	6,219,031	
	(3) そ の 他 医 業 収 益	1,797,398	18,388,565
2	医 薬 費 用		
	(1) 給 与 費	11,934,480	
	(2) 材 料 費	5,999,566	
	(3) 経 費	3,306,373	
	(4) 減 価 償 却 費	817,140	
	(5) 資 産 減 耗 費	1,133,883	
	(6) 研 究 研 修 費	40,975	23,232,418
	医 業 損 失		4,843,852
3	医 業 外 収 益		
	(1) 受 取 利 息 配 当 金	2,770	
	(2) 他 会 計 補 助 金	2,057,737	
	(3) 補 助 金	11,316	
	(4) 負 担 金 交 付 金	2,991,123	
	(5) 患 者 外 給 食 収 益	6,512	
	(6) そ の 他 医 業 外 収 益	125,366	5,194,825

4 医 業 外 費 用			
(1) 支私利息及び企業債取扱諸費	686,856		
(2) 患者外給食材料費	5,060		
(3) 雑 損 失	441,280	1,133,198	4,061,626
経 常 損 失			782,226
5 特 別 利 益			
(1) 固定資産売却益	0		
(2) 過年度損益修正益	2,917	2,917	
6 特 別 損 失			
(1) 固定資産売却損	0		
(2) 過年度損益修正損	84,277	84,277	
			81,35
			9
当 年 度 純 損 失			863,585
前 年 度 繰 越 欠 損 金			8,927,078
当 年 度 未 処 理 欠 損 金			9,790,664

平成10年度川崎市病院事業貸借対照表

(平成11年3月31日)

(単位：千円)

		資 産 の 部	
1	固 定 資 産		
(1)	有 形 固 定 資 産		
ア	土 地		280,175
イ	建 物	42,170,557	
	建物減価償却累計額	4,952,029	37,218,527
ウ	構 築 物	421,969	
	構 築 物 減 価 償 却 累 計 額	<u>201,189</u>	220,780
エ	工 器 械 備 品	10,747,914	
	器 械 備 品 減 価 償 却 累 計 額	<u>4,628,604</u>	6,119,309
オ	車 両	8,412	
	車両減価償却累計額	<u>6,457</u>	1,955
カ	その他有形固定資産	3,843	
	その他有形固定資産 減 価 償 却 累 計 額	<u>2,366</u>	1,476
キ	建 設 仮 勘 定		622,656
	有 形 固 定 資 産 合 計		<u>44,464,881</u>

(2) 無形固定資産			
ア 電話加入権	60		
イ 施設利用権	36,934		
無形固定資産合計		<u>36,994</u>	
固定資産合計			<u>44,501,876</u>

2 流動資産

(1) 現金預金	247,286		
(2) 未収金	3,663,595		
(3) 貯蔵品	78,090		
(4) 前払費用	215		
(5) その他流動資産	29,950		
流動資産合計		<u>4,019,138</u>	
資産合計			<u>48,521,015</u>

負債の部

3 流動負債

(1) 一時借入金	350,000		
(2) 未払金	1,571,789		
(3) 未払費用	696,443		
(4) その他流動負債	30,538		
流動負債合計		<u>2,648,770</u>	
負債合計			<u>2,648,770</u>

資 本 の 部

4 資 本 金		
(1) 自 己 資 本 金		15,620,908
(2) 借 入 資 本 金		
ア 企 業 債	39,019,315	
借 入 資 本 金 合 計		<u>39,019,315</u>
資 本 金 合 計		54,640,223
5 剰 余 金		
(1) 資 本 剰 余 金		
ア 受 贈 財 産 評 価 額	72,037	
イ 補 助 金	950,648	
資 本 剰 余 金 合 計		<u>1,022,685</u>
(2) 欠 損 金		
ア 当 年 度 未 処 理 欠 損 金	9,790,664	
欠 損 金 合 計		<u>9,790,664</u>
剰 余 金 合 計		<u>8,767,979</u>
資 本 合 計		<u>45,872,244</u>
負 債 資 本 合 計		<u><u>48,521,015</u></u>

出所)平成10年度川崎市病院事業会計決算書

千円未満は切り捨て表示した

2. 同規模公立病院・私立病院との比較

川崎市の市立病院を分析するにあたって、同規模の公立病院や私立病院との比較分析を行った。公立病院からの対象選定の際には規模、立地ができるだけ似通った病院のなかから比較対象病院を選定した。

私立病院は、地方公営企業である川崎市市立病院とは異なり、一般会計やその他公的機関からの補助をほとんど受けていない。いわゆる自助努力、独立採算で経営を行っている。にもかかわらず、私立病院では黒字経営をしているものも多く、参考にすべき対象として比較分析を行った。

注1) 公立病院との比較の際には、平成9年度の地方公営企業年鑑のデータを使用している。

これは地方公営企業年鑑が年度末にならないと出版されないためである。そのため、川崎市市立病院のデータも平成9年度の地方公営企業年鑑から引用して比較を行っている。また、地方公営企業年鑑の数値と「1. 過去3ヵ年の財務数値推移」における病院年報の値が第一桁(千円の単位)で異なる場合がある。これは両資料の数値の集計方法の差によるものと思われるが、病院比較の観点から同一資料上の数値比較を行うため、この節では地方公営企業年鑑の数値をそのまま利用する。

注2) 公立病院は自治体の位置付けに沿った医療行為を行ったことによる不採算相当部分に対して、一般会計繰入金で補填されることになっている。これらの繰入金は各々の自治体が定める病院の位置付けにより、補填される対象や金額が異なる。公立病院との比較において、地方公営企業年鑑のデータには各々の病院の不採算経費の内訳及び補填されている繰入金の内訳についての情報が掲載されていないため、ここでは不採算相当分の経費及び一般会計繰入分を含めて比較を行った。

注3) 私立病院と比較するにあたって、「平成10年 病院経営実態調査報告」「平成10年病院経営分析調査報告」(発行者 全国公私病院連盟)を用いたが、データは平成10年6月期のものである。比較の際にはこれを平成9年度(平成10年3月期)のデータとみなしている。また、私立病院との比較の際には川崎市の市立病院のデータを、100床当たり1ヶ月の数値に変換している。これは上記の統計資料との比較を容易にするためである。

なお、全国公私病院連盟の資料には、病院の立地条件や診療科等に関する情報がないため、今回の分析における私立病院との比較は、全国と同規模(病床数)私立病院の平均値との比較となっている。

川崎病院

表 -6 「川崎病院・同規模公立病院比較」

平成9年度 (単位:床,人,千円)

	川崎市 川崎病院	川口市 医療センター
一般病床数	530	530
他	50	10
看護基準	0	2:1
入院患者数(1日当たり)	534	471
外来患者数(1日当たり)	1,671	1,761
医業収益	11,890,636	11,549,922
入院収益	6,454,591	6,781,444
外来収益	3,970,464	3,848,475
その他医業収益	1,465,581	920,003
うち他会計負担金	1,194,285	533,686
うち室料差額収益	225,470	126,849
医業外収益	2,255,417	887,736
受取利息および配当金	1,688	20,057
補助金等収入	2,169,015	716,485
国庫補助金	9,333	1,935
都道府県補助金	6,295	102,156
他会計補助金	1,021,347	21,602
他会計負担金	1,132,040	590,792
その他医業外収益	84,714	151,194
特別利益	830	0
総収益	14,146,883	12,437,658
医業費用	13,476,344	11,273,718
職員給与と費	7,156,060	5,340,744
材料費	3,980,825	3,364,101
減価償却費	441,543	427,559
経費	1,867,647	2,117,605
研究研修費	26,883	22,857
資産減耗費	3,386	852
医業外費用	616,920	603,990
支払利息	340,451	436,839
企業債取扱諸費	254	0
繰延勘定償却	0	90,719
その他医業外費用	276,215	76,432
特別損失	50,350	9,237
総費用	14,143,614	11,886,945
病院事業収支	3,269	550,713
医業収支	-1,585,708	276,204

< 公立病院との比較 >

比較対象病院：川口市医療センター

(出所：地方公営企業年鑑)

川口市医療センター(以下「医療センター」という。)は、ほぼ同程度の病床数、都心近郊都市での立地、医業収支、病院事業収支が黒字であることから財務的に良好な病院として比較対象とした。

病院規模として病床数は40床川崎病院が多い(一般病床は同数)。

収益の状況

収益の詳細をみると入院収益は医療センターの方が高くなっている。入院収益を患者数と診療単価に分けてみると、1日当たり延患者数は川崎病院の方が約60人多いが、1人当たり診療単価は33,114円(「 . 業務効率の比較分析」1. 表 - 1参照)で医療センターの39,412円を大

き

く下回る。診療単価の差が大きいため、結果として医療センターの方が入院収益が多くなっている。

一方、外来収益は川崎病院の方が高い。同様に患者数と診療単価に分解して見ると、1日当たり患者数は、医療センターの方が90人多いのに対し、川崎病院の1日当たり診療単価は、9,701円と医療センターの8,092円を上回っており、結果として、川崎病院の方が外来収益が多くなっている。

医業外収益に関しては、川崎病院が1,367,681千円多く、そのほとんどは他会計補助金及び他会計負担金である。

費用の状況

医業費用の内訳を見ると、川崎病院の経費は医療センターより249,958千円少ないが、職員給与費、材料費、減価償却費はそれぞれ1,815,316千円、616,724千円、13,984千円高くなっている。職員給与費が病院規模に比例すると考えるなら、川崎病院は給与費が高い（病院規模を病床数に置き換えて考えると、川崎病院は医療センターに村し病床数比：580床/540床 = 1.07倍、職員給与費比：7,156,060/5,340,744千円 = 1.34倍）。

材料費に関しては患者数に比例すると考えるならば、川崎病院は材料費支出が高い（入院、外来合計患者数比2205人/2232人 = 0.99倍、材料費比3,980,825千円 / 3,364,101千円 = 1.18倍）。

また、経費については病院職員数に比例すると考えるならば、総職員人数比（職員数は表 - 1参照）では川崎病院は734人/606人 = 1.21倍であるのに村し、経費比では1,867,647千円 / 2,117,605千円 = 0.88倍であり、川崎病院の経費は少額になっている。しかしながら医療センターは病院規模に対して総職員数が少ないため、外部委託化が進んでいるとも考えられる。

全体としてみると、収益面では、医療センターの診療収益（入院収益と外来収益の合計額）は川崎病院を上回っており、他会計負担金が少ないにもかかわらず、医業収益総計では川崎病院とほぼ同程度の水準となっている。また医業外収益は川崎病院の方が多く、総収益としては川崎病院の方が高くなっている。

しかしながら費用については、医療センターは川崎病院と比較して、相対的に低くなっている。

そのため、川崎病院が医業収支では赤字、病院事業収支で3百万円強の黒字であるのに対し、医療センターは医業収支、病院事業収支ともに黒字になっており、病院事業収支の黒字額は川崎病院より多額になっている。

< 私立病院との比較 >

比較対象病院：同規模私立病院

(出所：全国公私病院連盟資料)

私立病院に関しては、個別の病院の数値が無いいため病床数が同規模の病院の平均値と比較を行った。川崎病院は病床数580を数え、500床以上の病院との比較が妥当であるが、比較対象の500床以上規模の病院の平均病床数は790床であり、400～499床規模の病院の方が、平均病床数442床

と近いいため、この二つの規模の私立病院数値との比較を行った。

表 -7 「川崎病院・同規模私立病院比較」

				(単位：人)		
	川崎市 川崎病院 稼働病床数580床 (内感染症50床)	500床以上規模 私立病院 サンプル数15病院 平均病床数790床	400床～499床規模 私立病院 サンプル数17病院 平均病床数442床			
患者数(1日当たり)						
計	2,205	1,882	1,115			
入院	534	691	349			
外来	1,671	1,191	766			
(単位：月次, 千円)						
	100病床 当たり金額	対医業 収益割合	100病床 当たり金額	対医業 収益割合	100病床 当たり金額	対医業 収益割合
医業収益	170,842	100.0%	134,292	100.0%	125,648	100.0%
入院収益	92,738	54.3%	87,309	65.0%	77,146	61.4%
外来収益	57,047	33.4%	40,216	29.9%	39,935	31.8%
その他医業収益	21,057	12.3%	6,767	5.0%	8,567	6.8%
医業外収益	32,405	19.0%	2,753	2.1%	2,374	1.9%
うち補助金収入	31,164	18.2%	943	0.7%	459	0.4%
特別利益	12	0.0%	551	0.4%	370	0.3%
病院事業収益	203,260	119.0%	137,596	102.5%	128,392	102.2%
医業費用	193,626	113.3%	130,080	96.9%	121,363	96.6%
給与費	102,817	60.2%	66,335	49.4%	59,418	47.3%
材料費	57,196	33.5%	38,502	28.7%	33,311	26.5%
経費	26,834	15.7%	17,610	13.1%	21,257	16.9%
減価償却費	6,344	3.7%	5,530	4.1%	5,555	4.4%
研究研修費	386	0.2%	869	0.6%	386	0.3%
資産減耗費	49	0.0%	45	0.0%	16	0.0%
その他		0.0%	1,189	0.9%	1,420	1.1%
医業外費用	8,864	5.2%	2,751	2.0%	3,125	2.5%
うち支払利息	4,892	2.9%	1,121	0.8%	1,500	1.2%
特別損失	723	0.4%	1,170	0.9%	532	0.4%
病院事業費用	203,213	118.9%	134,001	99.8%	125,020	99.5%
病院事業収支	47		3,595		3,372	
医業収支	-22,783		4,212		4,285	

注) 私立病院は平成10年6月期数値川崎病院は地方公営企業年鑑平成9年度値を月次に加工したもの

病床数500床以上規模の私立病院（以下「私立500床以上規模病院」という。）\ 400、499床規模

の私立病院（以下「私立400床以上規模病院」という。）と川崎病院の患者数を比べると、川崎病院の方が私立400床以上規模病院、私立500床以上規模病院よりも多い。

財務状況を見ると、100床当たりの医業収益、医業外収益は川崎病院がどちらの規模の私立病院よりも多い。内訳を見ても、川崎病院の方が収益額は多くなっている。

費用に関しては、ほとんどの科目において川崎病院の方が高くなっており、特に給与費、材料費、経費が高くなっている。

川崎病院は私立病院と比較すると、収益面では医業収益だけでも私立病院の病院事業収益を上回り、さらに医業外収益も大きな収益源になっている。しかし費用科目全般において私立病院の費用を大幅に上回る支出を行っているため、病院事業収支、医業収支においては私立病院を下回る数値となっており、高収益、高費用体質になっているといえる。

井田病院

表 -8「井田病院・同規模公立病院比較」

平成9年度	(単位:床,人,千円)	
	川崎市 井田病院	富士宮市 市立病院
一般病床数	358	350
他	64	
看護基準	2:1	2:1
入院患者数(1日当たり)	364	323
外来患者数(1日当たり)	739	1,203
医業収益	6,142,150	7,083,899
入院収益	3,607,284	3,859,321
外来収益	2,290,969	2,926,950
その他医業収益	243,897	297,628
うち他会計負担金	133,695	76,048
うち室料差額収益	90,678	40,414
医業外収益	2,019,682	622,250
受取利息および配当金	1,062	3,596
補助金等収入	1,977,023	546,818
国庫補助金	0	0
都道府県補助金	0	4,591
他会計補助金	924,530	338,922
他会計負担金	1,052,493	203,305
その他医業外収益	41,597	71,836
特別利益	3,471	0
総収益	8,165,303	7,706,149
医業費用	7,872,534	7,170,496
職員給与費	4,321,071	3,245,119
材料費	1,989,509	2,524,646
減価償却費	381,414	368,952
経費	1,104,937	1,004,444
研究研修費	21,109	18,769
資産減耗費	54,494	8,566
医業外費用	271,277	455,993
支払利息	126,172	304,957
企業債取扱諸費	146	0
看護学院費	0	0
繰延勘定償却	0	0
その他医業外費用	144,959	151,036
特別損失	19,641	6,931
総費用	8,163,452	7,633,420
病院事業収支	1,851	72,729
医業収支	-1,730,384	-86,597

< 公立病院との比較 >

比較対象病院：富士宮市市立病院

(出所：地方公営企業年鑑)

富士宮市市立病院(以下「富士宮病院」という。)は総病床数では井田病院より70床ほど少ないものの、病院事業収支において井田病院を上回る黒字であり、医業収支の赤字額も井田病院の約5%におさえており、参考にすべき公立病院として比較を行った。

収益の内訳を見ると井田病院の方が医業収益は約1,000百万円ほど少ないが、医業外収益では他会計補助金、他会計負担金が多いため、約1,400百万円収益が多く、総収益(病院事業収益)は井田病院の方が多くなっている。

医業収益については、井田病院の方が病床数及び入院患者数が多いにもかかわらず入院収益は少ない。

費用面に関しては、材料費を除き全般的に井田病院の方が高くなっている。特に職

員給与費は病院の規模(病院規模を病床数に置き換えて考えると、井田病院は富士宮病院に村し病床数比420床/350床=1.20倍)に対し職員給与費比は4,321,071千円/3,245,119千円=1.33倍であり、病院規模に対して給与費が大きい。金額的にも1,000百万円以上井田病院の給与費が多くなっており、病院規模の差を勘案しても人件費負担が重荷といえる。

材料費に関しては患者人数比で見ると、入院、外来合計患者人数比は0.72倍(1,103人/1,526人)に対し、材料費比は0.79倍(1,989,509千円/2,524,646千円)となっており、材料費が患者人数に比例するとするなら、材料費も井田病院の方が若干多いと考えられる。

経費に関しては、患者数比が0.72倍であることから考えると井田病院の方が多いが、職員数比が1.12倍(429人/383人)からみると、経費比は1.10倍(1,104,937千円/1,004,444千円)であり、規模に対してほぼ同額である。

全体としてみると、富士宮病院は井田病院より病院規模が小さいながらも医業収益を多くあげ、費用のなかでもっとも割合が大きい職員給与費が低いことから医業費用が少なくなっており、医薬収支の赤字額を小さくしている。そのため富士宮病院は井田病院よりも医業外収益が少なく、医業外費用が多いにもかかわらず、病院事業収支は良いものとなっている。

< 私立病院との比較 >

表 - 9 「井田病院・同規模私立病院比較」

(単位：人)

	川崎市 井田病院 稼動病床数422床 (内結核等64床)	400床～499床規模 私立病院 サンプル数17病院 平均病床数442床
患者数(1日当たり)		
計	1,103	1,115
入院	364	349
外来	739	766

比較対象病院：同規模私立病院
(出所：全国公私病院連盟資料)
私立病院(400床以上規模)

と井田病院の患者数を比べると、入院患者数も外来患者数もほぼ近似値であり、病床数も近い値となっている。財務状況では、井田病院は病院事業収益も病院事業費用も私立病院より高くなっている。

(単位：月次、千円)

	100病床 当たり金額	対医業 収益割合	100病床 当たり金額	対医業 収益割合
医業収益	121,290	100.0%	125,648	100.0%
入院収益	71,234	58.7%	77,146	61.4%
外来収益	45,240	37.3%	39,935	31.8%
その他医業収益	4,816	4.0%	8,567	6.8%
医業外収益	39,883	32.9%	2,374	1.9%
うち補助金等収入	39,041	32.2%	459	0.4%
特別利益	69	0.1%	370	0.3%
病院事業収益	161,242	132.9%	128,392	102.2%

医業収益の金額は両病院ともほぼ同等であるが、井田病院は病院事業収益の32.9%を占める医業外収益を得ているため(私立400床以上規模病院は、1.9%)

病院事業収益が私立病院を上回っている。しかしながら、医業外収益の大部分が他会計補助金及び他会計負担金である。

医業費用	155,461	128.2%	121,363	96.6%
給与費	85,329	70.4%	59,418	47.3%
材料費	39,287	32.4%	33,311	26.5%
経費	21,819	18.0%	21,257	16.9%
減価償却費	7,532	6.2%	5,555	4.4%
研究研修費	417	0.3%	386	0.3%
資産減耗費	1,076	0.9%	16	0.0%
その他	0	0.0%	1,420	1.1%
医業外費用	5,357	4.4%	3,125	2.5%
うち支払利息	2,492	2.1%	1,500	1.2%
特別損失	388	0.3%	532	0.4%
病院事業費用	161,206	132.9%	125,020	99.5%

病院事業収支	37	3,372
医業収支	-34,170	4,285

注) 私立病院は平成10年6月期数値

井田病院は地方公営企業年鑑平成9年度値を月次に加工したもの

費用面では、給与費の金額差が大きい(25,911千円井田病院の方が多)。対医業収益割合では、井田病院の給与費は医業収益に対して70.4%と、私立病院の47.3%に対し23.1%上回っている。他の医業費用項目に関しても井田病院の方が高い。

井田病院は私立病院に比べ医業収益ではほぼ等しく、他会計補助金及び他会計負担金により病院事業収益では私立病院を上回っているが、医業費用が大きな負担となっているため、病院事業収支、医業収支が私立病院を下回るものとなっている。

．業務効率の比較分析

「 ．川崎市市立病院の経営分析」では財務面からの川崎市市立病院の特徴を見てきたが、ここでは経営効率という点から両病院の特徴を見ていきたい。

比較対象として選出している病院は、「 ．川崎市市立病院の経営分析」で用いたものと同じである。

また、比較対象病院、川崎病院、井田病院ともに、稼働病床数当たりの数値で算出した。

注1) ．と同様に、公立病院との比較の際には、平成9年度の地方公営企業年鑑のデータを使用している。

注2) 同じく、私立病院と比較するにあたって、『平成10年 病院経営実態調査報告全国公私病院連盟』を用いた。また、病院当たりの職員人数、職員1人当たり給与は、全国公私病院連盟のデータを加工して使用している。

1. 他病院の業務指標値との比較分析

川崎病院

< 公立病院・私立病院との比較 >

比較対象病院：川口市医療センター・同規模私立病院

(出所：地方公営企業年鑑、全国公私病院連盟資料)

表 - 1 「川崎病院業務効率比較」(単位：床，日)

業務効率比較 (平成9年度値)	川崎市 川崎病院(稼働病床)	川口市 医療センター	500床以上規模 私立病院	400床～499床規模 私立病院
一般病床数	530	530	サンプル数15病院 790(平均)	サンプル数17病院 442(平均)
他病床数	50	10	-	-
平均在院日数 (公的病院は一般病床での値)	22.8	20.4	26.5	21.6
病床利用率 (公的病院は一般病床での値)	94.00%	89.90%	87.64%	79.20%
患者数(1日当たり:人)				
入院	534	471	691	349
外来	1,671	1,761	1,191	766
患者1人当たり収入(円)				
計	¥42,815	¥47,504	¥43,051	¥39,918
入院	¥33,114	¥39,412	¥33,536	¥32,049
外来	¥9,701	¥8,092	¥9,515	¥7,869
医師				
人数	78	96	103	55
円 給与	¥1,246,996	¥1,224,936	¥901,298	¥952,177
人 100床当たり人数	13.4	17.8	13.1	12.4
歳 平均年齢	41	39		
看護婦(士)				
人数	423	346	393	203
円 給与	¥570,444	¥489,626	¥319,859	¥299,957
人 100床当たり人数	72.9	64.1	49.8	46.0
歳 平均年齢	32	30		
准看護婦(士)				
人数	31	9	74	49
円 給与	¥752,836	¥621,602	¥293,404	¥266,577
人 100床当たり人数	5.3	1.7	9.4	11.1
歳 平均年齢	44	52		
事務職員				
人数	48	53		
円 給与	¥727,988	¥636,168		
人 100床当たり人数	8.3	9.8		
歳 平均年齢	39	41		
その他職員				
人数	154	102		
円 給与	¥722,198	¥589,648		
人 100床当たり人数	26.6	18.9		
歳 平均年齢	44	41		
医師1人当たり看護婦数(人)				
	5.4	3.6	3.8	3.7
医師1人当たり患者数(人)				
計	28.3	23.3	18.2	20.3
入院	6.8	4.9	6.7	6.4
外来	21.4	18.3	11.5	14.0

注1) 公立病院の各数値は、出所数値が病院ごと人数のため、病院ごと人数を基準に算出

私立病院の各数値は、出所数値が100病床当たり人数のため、100病床当たり人数を基準に算出

注2) 事務職員・その他教員については、地方公営企業年鑑と全国公私病院連盟の区分法が異なることが考えられるため、公私病院連盟のデータは割愛した

注3) 公立病院の給与は年間支払額を年延職員数で除したものを、月次換算したもの(単純平均)

私立病院の給与は常勤職員に対して毎月決まって支払われる給与額を常勤職員数で除したもの(単純平均)

< 公立病院との比較 >

川崎病院は、私立の同規模2病院と比べると、医師1人当たり外来患者数が多く、効率的に患者を診ることができていると考えられる反面、医師に負担がかかっているともいえる（医療センターは医師数が川崎病院よりも多く、医師1人当たり外来患者数は3.1人少ない）。

医療センターと比較してみると100床当たりの職員数は、看護婦で8.8人、准看護婦3.6人、その他職員数7.7人多くなっている。逆に医師は4.4人、事務職員は1.5人少ない。

表 - 2 「平均月収詳細内訳比較」

平均月収額詳細(円)		川崎市 川崎病院(稼働病床)	川口市 医療センター
医師	人数(人)	78	96
	平均年齢(歳)	41	39
	給与	¥1,246,996	¥1,224,936
	基本給	¥502,193	¥558,136
	時間外勤務手当	¥187,832	¥82,968
	特殊勤務手当	¥92,261	¥49,056
	期末勤勉手当	¥238,708	¥259,155
その他	¥226,002	¥275,621	
看護婦	人数(人)	423	346
	平均年齢(歳)	32	30
	給与	¥570,444	¥489,626
	基本給	¥313,099	¥296,809
	時間外勤務手当	¥30,405	¥8,114
	特殊勤務手当	¥60,618	¥25,744
	期末勤勉手当	¥138,669	¥129,564
その他	¥27,653	¥29,394	
准看護婦	人数(人)	31	9
	平均年齢(歳)	44	52
	給与	¥752,836	¥621,603
	基本給	¥412,605	¥400,667
	時間外勤務手当	¥42,000	¥11,926
	特殊勤務手当	¥68,616	¥6,139
	期末勤勉手当	¥189,927	¥187,130
その他	¥39,688	¥15,741	
事務職員	人数(人)	48	53
	平均年齢(歳)	39	41
	給与	¥727,988	¥636,168
	基本給	¥415,766	¥394,129
	時間外勤務手当	¥75,071	¥22,281
	特殊勤務手当	¥1,694	¥3,176
	期末勤勉手当	¥197,287	¥183,379
その他	¥38,170	¥33,203	
その他職員	人数(人)	154	102
	平均年齢(歳)	44	40
	給与	¥722,198	¥589,648
	基本給	¥397,874	¥350,350
	時間外勤務手当	¥97,250	¥34,149
	特殊勤務手当	¥9,375	¥14,578
	期末勤勉手当	¥182,652	¥159,511
その他	¥35,047	¥31,060	

注)平均月収は職員1人当たりの単純平均額である

1人当たり平均給与水準については、単純比較で見ると医師はほぼ同等であるが、それ以外の職員の給与は、総額で約8～13万円ほど高くなっている。しかし職員の給与に関しては、勤務内容によって手当等の支給額が変動するため、さらに給与の内訳について比較を行い、その金額差について検証を行った。

表 - 2の給与の内訳をみると、基本給は川崎病院の方が高くなっているが、これは医療センターの方が相対的に平均年齢が低いことが原因と考えられる（しかしながら、事務職員の基本給は、平均年齢が川崎病院の方が2歳低いにもかかわらず、高くなっている）。しかし、川崎病院の時間外勤務手当、特殊勤務手当が川崎病院は医師、その他職員だけでなく職員全般において高くなっており、時間外勤務手当についてはどの職員においても医療センターの2倍以上の金額である。

このように、医師及び事務職員を除くと、川崎病院の100床当たりの職員数は多く、給与水準も高いため、給与費が高くなっている。現在川崎病院は新病棟への移行中であり、外来棟と入院病棟の連携がとれていないことが原因の一つと考えられる。

< 私立病院との比較：表 - 1 参照 >

私立病院と比較すると、患者1人当たり収益は同程度であるが、職員1人当たり給与が大きく異なる。私立病院は川崎病院と比較して医師給与は約4分の3、看護婦、准看護婦給与は約2分の1程度という水準である。ただし、私立病院のデータには年齢が記載されていないため、平均年齢の差がどの程度あるのかは分からないが、給与差は大きくなっている。

100床当たり職員数では、医師数は同程度であるが、看護婦及び准看護婦人数では川崎病院のほうが多くなっている。とはいえ私立病院のデータには看護体系が記載されていないため単純に病床当たり看護婦数を比較することはできない（川崎病院、医療センターは表 - 6に記載しているが2：1看護であり、入院患者2名に対して看護婦または准看護婦を最低1名配置する。病院によって看護体系は異なり、患者数に対して必要な看護婦及び准看護婦人員数も異なる。また看護体系によって看護料が異なる。）

しかしながら「川崎市市立病院の経営分析」で述べたように川崎病院と同規模の私立病院の収支構造は低収益、低費用による収支黒字を達成していたが、低費用である要因の一つとして看護体制の省力化をはかっていることが推測される。

井田病院

< 公立病院・私立病院との比較 >

比較対象病院：富士宮市市立病院・同規模私立病院

(出所：地方公営企業年鑑、全国公私病院連盟資料)

表 - 3 「井田病院業務効率比較」(単位：床，日)

業務効率比較 (平成9年度値)	川崎市 井田病院(稼働病床)	富士宮市 市立病院	400床～499床規模 私立病院 サンプル数17病院 442(平均)
一般病床数	358	350	
他病床数	64		
平均在院日数	32.5	17.4	21.6
(公的病院は一般病床での値)			
病床利用率	81.70%	92.40%	79.20%
(公的病院は一般病床での値)			
患者数(1日当たり:人)			
入院	364	323	349
外来	739	1,203	766
患者1人当たり収入(円)			
計	¥39,787	¥42,640	¥39,918
入院	¥27,133	¥32,707	¥32,049
外来	¥12,654	¥9,933	¥7,869
医師			
人数	39	48	55
円 給与	¥1,208,884	¥1,201,048	¥952,177
人 100床当たり人数	9.2	13.7	12.4
歳 平均年齢	44	36	
看護婦(士)			
人数	226	218	203
円 給与	¥582,188	¥468,954	¥299,957
人 100床当たり人数	53.6	62.3	46.0
歳 平均年齢	36	33	
准看護婦(士)			
人数	29	17	49
円 給与	¥801,724	¥717,324	¥266,577
人 100床当たり人数	6.9	4.9	11.1
歳 平均年齢	52	51	
事務職員			
人数	31	24	
円 給与	¥767,134	¥602,431	
人 100床当たり人数	7.3	6.9	
歳 平均年齢	42	41	
その他職員			
人数	104	76	
円 給与	¥680,741	¥506,934	
人 100床当たり人数	24.6	21.7	
歳 平均年齢	43	36	
医師1人当たり看護婦数(人)			
	5.79	4.54	3.71
医師一人当たり患者数(人)			
計	28.3	31.8	20.3
入院	9.3	6.7	6.4
外来	18.9	25.1	14.0

- 注1) 公立病院の各数値は、出所数値が病院ごと人数のため、病院ごと人数を基準に算出
 私立病院の各数値は、出所数値が100床当たり人数のため、100床当たり人数を基準に算出
 注2) 事務職員・その他教員については、地方公営企業年鑑と全国公私病院連盟の区分法が異なること
 が考えられるため、公私病院連盟のデータは割愛した
 注3) 公立病院の給与は年間支払額を年延職員数で除したものを、月次換算したもの(単純平均)
 私立病院の給与は常勤職員に対して毎月決まって支払われる給与額を常勤職員数で除したもの(単純平均)

< 公立病院との比較 >

井田病院は富士宮病院に比べて、入院患者数は多いものの外来患者数が少なくなっている。患者1人当たり収益は入院患者については井田病院の方が少なく、外来患者については富士宮病院のほうが少ないという結果になっている。

病床利用率は、井田病院の方が約10%低くなっている。

100床当たりの職員数を見ると、医師数、看護婦数(准看護婦を含む)は井田病院の方が少ない。

表 - 4 「平均月収額詳細内訳比較」

平均月収額詳細(円)		川崎市 井田病院(稼働病床)	富士宮市 市立病院
医師	人数(人)	39	48
	平均年齢(歳)	44	36
	給与	¥1,208,884	¥1,201,048
	基本給	¥528,976	¥483,998
	時間外勤務手当	¥143,813	¥110,888
	特殊勤務手当	¥55,589	¥347,086
	期末勤勉手当	¥257,701	¥228,273
その他	¥222,804	¥30,803	
看護婦	人数(人)	226	218
	平均年齢(歳)	36	33
	給与	¥582,188	¥468,954
	基本給	¥316,107	¥279,227
	時間外勤務手当	¥37,589	¥10,146
	特殊勤務手当	¥62,004	¥31,539
	期末勤勉手当	¥141,399	¥126,513
その他	¥25,089	¥21,529	
准看護婦	人数(人)	29	17
	平均年齢(歳)	52	51
	給与	¥801,724	¥717,324
	基本給	¥454,667	¥456,642
	時間外勤務手当	¥38,802	¥10,892
	特殊勤務手当	¥66,072	¥35,260
	期末勤勉手当	¥212,891	¥187,005
その他	¥29,293	¥27,525	
事務職員	人数(人)	31	24
	平均年齢(歳)	42	41
	給与	¥767,134	¥602,431
	基本給	¥430,153	¥380,715
	時間外勤務手当	¥88,104	¥15,347
	特殊勤務手当	¥2,132	¥7,167
	期末勤勉手当	¥205,866	¥177,750
その他	¥40,879	¥21,451	
その他職員	人数(人)	104	76
	平均年齢(歳)	43	36
	給与	¥680,741	¥506,934
	基本給	¥395,569	¥315,033
	時間外勤務手当	¥68,259	¥18,694
	特殊勤務手当	¥11,031	¥13,087
	期末勤勉手当	¥182,182	¥142,148
その他	¥23,700	¥17,971	

注)平均月収は職員1人当たりの単純平均額である

一方、1人当たり平均医師給与に関しては同程度であるが、他の職員に関しては井田病院の方が全般に10万円以上高い(その他職員に関しては平均年齢が7歳違うためこの点を考慮する必要がある)。川崎病院と同様に、給与額はその勤務内容によって手当等支給額が変動するため、さらに給与内容の内訳について比較を行い、その金額差について検証する。

表 - 4 の平均月収額の内訳をみると、医師を除く給与の詳細項目全般にわたって金額差があることが分かる。単純平均であるが、時間外勤務手当については全職員において富士宮病院より高くなっており、事務職員は5.7倍、その他職員は3.7倍になっている。

< 私立病院との比較：表 -3参照 >

一方、私立病院と比較すると、患者数はほぼ同数であり、入院と外来の患者数比率もほぼ同数であるが、平均在院日数については私立病院が21.6日であるのに村し井田病院は32.5日と長くなっている。

患者1人当たり収益においては、同規模の私立病院に対してほぼ同額であるが、内訳をみると、井田病院の方が入院収益は少なく外来収益が高くなっている。

私立病院は井田病院と比較しての職員平均給与が、医師は約4分の3、看護婦は2分の1以下という水準である。

100床当たり看護婦数(准看護婦を含む)はほぼ同等(井田：60.5人、私立400床以上：57.1人)である。

2. 病棟別病床利用率、看護婦配置状況

医業収益の5～6割を占めるのが（地方公営企業年鑑より）入院収益であるが、それを左右するのが病床利用率である。ここでは各病棟ごとの病床稼働状況、看護婦配置状況を概説する。

川崎病院

旧病棟時

表 -5 「川崎病院 病床利用率と看護体制：旧病棟」

平成10年12月～平成11年3月

(単位：人，床)

病棟名	1日平均患者数	延入院患者数	許可病床数	平均稼働病床数	年間延稼働病床数	稼働病床利用率	平均看護婦数	看護婦1人当たり患者数
8-南:小児科	38.7	4,684	46	46.0	5,566	84.2%	28	1.38
8-西:未熟児	11.0	1,327	10	10.0	1,210	109.7%	16	0.69
8-西:NICU	0.8	98	5	5.0	605	16.2%	0	-
8-西:新生児隔離	0.0	0	5	5.0	605	0.0%	0	-
8-北:産科・婦人科	36.4	4,399	43	43.0	5,203	84.5%	32	1.14
9-南:一般	51.1	6,181	40	40.0	4,840	127.7%	24	2.13
9-南:伝染	0.3	40	30	30.0	3,630	1.1%	0	-
9-北:精神科	16.5	1,999	20	20.0	2,420	82.6%	20	0.83
10-南:婦人科・整形外科	48.4	5,861	52	52.0	6,292	93.2%	21	2.31
10-北:整形外科	50.3	6,090	53	53.0	6,413	95.0%	20	2.52
11-南:外科	51.1	6,188	53	53.0	6,413	96.5%	22	2.32
11-北:外科	50.6	6,124	53	53.0	6,413	95.5%	23	2.20
12-南:脳外・皮膚・放射線	49.1	5,947	53	53.0	6,413	92.7%	23	2.14
12-北:耳鼻・眼科・泌尿器	45.8	5,540	51	51.0	6,171.0	89.8%	20	2.29
13-南:内科・神経内科	51.9	6,281	53	53.0	6,413	97.9%	24	2.16
13-北:心臓外科・循環器科	47.7	5,776	51	51.0	6,171	93.6%	23	2.08
14-南:休床	0.0	0	51	0.0	0	-	0	-
14-北:内科・腎センター	46.5	5,629	52	52.0	6,292	89.5%	27	1.72
ICU/CCU	6.4	780	12	12.0	1,452	53.7%	31	0.21
計	602.8	72,944	733	682.0	82,522	88.4%	354	1.70

出所)川崎市提供資料

許可病床数合計は平成11年3月末の数値

平均稼働病床数は、年間延稼働病床数を、診療日数 121日 で除したもの

稼働病床利用率は延入院患者数を平均稼働病床数と診療日数(121日)で除したもの

平均看護婦数は、月毎の病棟毎看護婦数を月平均に加工したもの

看護婦1人当たり患者数は延入院患者数を平均看護婦数と診療日数(121日)で除したもの

表 -6 「川崎病院 病床利用率と看護体制：新病棟」

平成10年12月～平成11年3月

(単位：人，床)

病棟名	1日平均患者数	延入院患者数	許可病床数	平均稼働病床数	年間延稼働病床数	稼働病床利用率	平均看護婦数	看護婦1人当たり患者数
8-南:小児科	38.7	4,684	46	46.0	5,566	84.2%	28	1.38
8-西:未熟児	11.0	1,327	10	10.0	1,210	109.7%	16	0.69
8-西:NICU	0.8	98	5	5.0	605	16.2%	0	-
8-西:新生児隔離	0.0	0	5	5.0	605	0.0%	0	-
8-北:産科・婦人科	36.4	4,399	43	43.0	5,203	84.5%	32	1.14
9-南:一般	51.1	6,181	40	40.0	4,840	127.7%	24	2.13
9-南:伝染	0.3	40	30	30.0	3,630	1.1%	0	-
9-北:精神科	16.5	1,999	20	20.0	2,420	82.6%	20	0.83
10-南:婦人科・整形外科	48.4	5,861	52	52.0	6,292	93.2%	21	2.31
10-北:整形外科	50.3	6,090	53	53.0	6,413	95.0%	20	2.52
11-南:外科	51.1	6,188	53	53.0	6,413	96.5%	22	2.32
11-北:外科	50.6	6,124	53	53.0	6,413	95.5%	23	2.20
12-南:脳外・皮膚・放射線	49.1	5,947	53	53.0	6,413	92.7%	23	2.14
12-北:耳鼻・眼科・泌尿器	45.8	5,540	51	51.0	6,171.0	89.8%	20	2.29
13-南:内科・神経内科	51.9	6,281	53	53.0	6,413	97.9%	24	2.16
13-北:心臓外科・循環器科	47.7	5,776	51	51.0	6,171	93.6%	23	2.08
14-南:休床	0.0	0	51	0.0	0	-	0	-
14-北:内科・腎センター	46.5	5,629	52	52.0	6,292	89.5%	27	1.72
ICU/CCU	6.4	780	12	12.0	1,452	53.7%	31	0.21
計	602.8	72,944	733	682.0	82,522	88.4%	354	1.70

出所)川崎市提供資料

許可病床数合計は平成11年3月末の数値

平均稼働病床数は、年間延稼働病床数を、診療日数(121日)で除したものの

稼働病床利用率は延入院患者数を平均稼働病床数と診療日数(121日)で除したものの

平均看護婦数は、月毎の病棟毎看護婦数を月平均に加工したものの

看護婦1人当たり患者数は延入院患者数を平均看護婦数と診療日数(121日)で除したものの

川崎病院の旧病棟における病棟別病床利用率は表 - 5の通りだが、ICU、未熟児、感染症等、用途が特殊な病床以外は軒並み高い利用率となっている。

平成10年11月24日より新病棟が稼働したが、新病棟においても特殊な病床の稼働率が低い状況は変わっていない。旧病棟時に比べ、患者数が1日当たり12.5%増えたが(67人増加)増加した

病床数(100床)を旧病棟の病床利用率と同水準で利用しきれなかったため、稼働病床利用率が低下している。例えば内科は旧病棟では100%近い稼働率をあげているが、新病棟では現在89.5%(14-北)97.9%(13-南)であり、病床利用率が低下してきている。

看護婦配置状況については、看護婦1人当たり患者数も特殊な病床(ICU、未熟児等)では少なくなっている。また、それ以外の病床においては数字のばらつきが見られる。これは、病棟別の患者の重篤度合いに応じて看護婦の配置を行い、診療科目別に看護婦数の調整が行われているためである。

一方外来では、各看護婦は担当の診療科が決まっているが、その日の繁忙時と閑散時の度合いに応じて看護婦が移動する仕組みになっている。

看護婦の配置替えについては外来、入院とも毎月行っており、年2回はかなりの人数を対象と

した異動が行われている。看護婦の定数の見直しは、病床数が変更になる際に行っている。また入院担当の看護婦の業務効率化を図るため、看護婦にポケベルを持たせ、看護婦が病室にいても他の患者の呼び出しに対応できるようになっており、ナースステーションを基点としなくても、病室から病室へ移動できるようになっている。

川崎病院では上記のとおり、その時々での病棟等の繁閑度に応じた看護婦配置を行っている。しかし、川崎病院では病棟ごとに予定患者数を設定していないため、予定患者数に基づいた形で看護婦の必要数を定めていない。そのため計画段階において必要とされる人員数と実際に配置された人員数の差異が管理されていない。

井田病院

井田病院の病棟ごとの病床利用率は表にもあるとおり、全般に80%前後となっている。

今年度はかわさき総合ケアセンター新設に伴い10月から病床数が増加している。またICUのような特殊な病床に関しては病床利用率が低くなっている。

表 -7「井田病院 病床利用率と看護体制」

平成10年4月～平成11年3月

(単位：人，床)

病棟名	1日平均患者数	延入院患者数	許可病床数	平均稼働病床数	年間延稼働病床数	稼働病床利用率	平均看護婦数	看護婦1人当たり患者数
1-2(休床)	0.0	0	0	0.0	0	-	0.0	-
1-3呼吸器科	43.4	15,835	52～57	54.5	19,890	79.6%	20.4	2.13
1-4結核	48.1	17,558	58	58.0	21,170	82.9%	16.9	2.85
2西-3循環器・腎	38.8	14,162	46～61	53.5	19,520	72.6%	20.2	1.92
2西-4消/外科	39.9	14,560	47～50	49.2	17,947	81.1%	23.4	1.70
2西-5内科	43.2	15,764	50～51	50.5	18,432	85.5%	21.2	2.04
2東-4婦/泌	35.1	12,798	40～45	42.5	15,510	82.5%	17.6	1.99
2東-5(休床)	0.0	0	40～51	0.0	0	-	0.0	-
3 ICU/CCU	7.0	2,569	10	10.0	3,650	70.4%	21.5	0.33
3-2脳/神内科	40.3	14,700	42～46	44.3	16,181	90.8%	23.8	1.69
3-3整/呼外/耳	42.8	15,626	53～57	55.3	20,196	77.4%	20.8	2.06
3-4特室混合	20.3	7,405	24～46	22.7	8,276	89.5%	17.3	1.17
4 緩和ケア	8.8	3,199	20	10.0	3,640	87.9%	9.5	0.92
計	368.0	134,176	552	450.4	164,412	81.6%	213	1.73
4 緩和ケア(年間換算)	17.6	3,199	20	20	3,640	87.9%	19.0	0.46

出所) 川崎市提供資料

許可病床数はデータ取得期間中に変動がある分はその変動幅を示した。計は平成11年3月末の数値

平均稼働病床数は、年間延稼働病床数を、診療日数(365日)で除したもの

稼働病床利用率は延入院患者数を平均稼働病床放と診療日数(365日)で除したもの

平均看護婦数は、月毎の病棟毎看護婦数を月平均に加工したもの

看護婦1人当たり患者数は延入院患者数を平均看護婦放と診療日数(365日)で除したのもの

3. 設備利用状況

表 -8 「高額医療機器利用状況」

	血管撮影装置	リニアック	CTスキャナー		MRI	
			単純	造影	単純	造影
川崎病院						
平成9年 年間使用回数	638	5,470	6,248	2,236	4,714	1,023
月平均	53	456	521	186	393	85
平成10年 年間使用回数	643	4,956	6,571	2,312	4,163	773
月平均	54	413	548	193	347	64
うち他機関からの依頼(年間)	0	1,665	0		297	
井田病院						
平成9年 年間使用回数	235	2,521	4,148	1,157	2,062	650
月平均	20	210	346	96	172	54
平成10年 年間使用回数	183	3,197	4,288	1,087	2,197	665
月平均	15	266	357	91	183	55
うち他機関からの依頼(年間)	0	6	0		0	

出所)川崎市提供資料

注)造影は造影剤を使用した撮影をいう。

リニアックとは、直線粒子加速装置と呼ばれ、高エネルギーX線を発生させることで悪性腫瘍などの細胞を破壊し、治療する医療機器のことをいう。

CTスキャナーとは、放射線(X線)とコンピュータを使い、輪切りの絵を連続して撮ることで、体(頭、腹部、手足)の内部の構造を精密に検査する医療機器のことをいう。

MRIは人体の横断面ばかりでなく、縦断面の画像も得られる医療機器のことで、体内の水や脂肪の水素原子の磁気特性を利用して画像を作り、脳のように複雑な組織でも微小な構造までもはっきり描出することが可能である。加えて造影剤を用いれば、その中にある腫瘍などの異常部位をさらに鮮明に描出できる。

両病院における高額医療機器の使用状況を見ると、川崎病院はどの高額医療機器においても、井田病院の約2倍前後の頻度で利用している。またリニアック、MRIに関しては他機関からの依頼による機器利用も行われている。

4. 診療科別診療行為別：入院・外来患者1人当たり収益

表 -9 「川崎病院 診療科別患者1人当たり収益」

平成10年度 (単位:人)

	総収益金額		患者1人当たり診療収益			
	外来 (千円)	入院 (千円)	外来		入院	
			延人数	1人当たり 金額(円)	延人数	1人当たり 金額(円)
内科	1,575,864	1,846,657	141,648	11,125	64,760	28,515
精神・神経科	170,151	96,709	24,138	7,049	5,041	19,184
小児科	243,880	471,978	36,512	6,679	15,729	30,007
外科	454,716	1,379,800	29,924	15,196	36,273	38,039
脳神経外科	115,729	414,786	11,997	9,646	11,750	35,301
整形外科	439,684	818,562	52,261	8,413	24,252	33,752
心臓血管外科	54,190	434,358	4,805	11,278	4,041	107,488
皮膚科	131,975	79,014	23,694	5,570	3,307	23,893
泌尿器科	149,903	179,583	13,294	11,276	6,178	29,068
産科・婦人科	307,377	841,246	34,807	8,831	23,481	35,827
眼科	118,515	84,577	16,539	7,166	1,397	60,542
耳鼻いんこう科	135,052	190,310	21,868	6,176	6,063	31,389
放射線科	36,453	7,480	2,273	16,037	261	28,659
歯科口腔外科	30,473	18,951	6,626	4,599	653	29,021
伝染病棟	0	4,793		0	171	28,029
合計	3,963,962	6,868,804	420,386	9,429	203,357	33,777

出所)川崎病院年報

表 -10 「井田病院 診療科別患者1人当たり収益」

平成10年度 (単位:人)

	総収益金額		患者1人当たり診療収益			
	外来 (千円)	入院 (千円)	外来		入院	
			延人数	1人当たり 金額(円)	延人数	1人当たり 金額(円)
内科	651,308	671,109	48,250	13,499	27,957	24,005
呼吸器内科	295,196	525,216	13,599	21,707	17,540	29,944
腎臓科	224,911	262,607	8,012	28,072	6,669	39,377
循環器科	113,357	190,418	9,041	12,538	6,977	27,292
神経内科	108,307	260,762	9,700	11,166	11,120	23,450
消化器・外科	243,338	546,485	21,999	11,061	15,830	34,522
呼吸器外科	20,652	113,805	1,971	10,478	4,052	28,086
精神科	43,490	32,166	5,602	7,763	1,686	19,078
脳神経外科	28,885	72,788	3,608	8,006	2,363	30,803
整形外科	107,316	281,047	18,123	5,922	10,161	27,659
泌尿器科	170,049	230,014	12,187	13,953	7,444	30,899
婦人科	106,931	99,159	11,331	9,437	3,258	30,436
耳鼻いんこう科	61,122	50,402	10,053	6,080	1,557	32,371
放射線科	11,691	1,377	855	13,674	36	38,250
歯科	1,298	0	385	3,371	-	-
呼吸器(結核)	34,607	292,239	2,155	16,059	17,526	16,675
合計	2,222,458	3,629,594	176,871	12,565	134,176	27,051

出所)井田病院病院年報

(この中には人間ドック・ケアサービス等の患者を入れていない)

両院間での診療科の区分方法に違いがあるため、診療科別に病院間の単純な比較はできないが、どちらの病院においても、診療科ごとの患者1人当たり収益金額が大きく違うことがわかる。

各々の病院の特徴をみると、川崎病院において心臓血管外科の入院1人当たり収益107,488円、井田病院において腎臓科の1人当たり入院収益39,377円が他診療科に比較して高くなっており、両病院の高度医療提供や成人病に対する高度な医療サービスを特徴付けているものと思われる。

表 -12 「井田病院 診療科別患者数推移」(単位：人)

井田病院

		延入院患者数推移			患者比率推移				
		平成8年度	平成9年度	平成10年度			平成8年度	平成9年度	平成10年度
入院	内科				内科				
	一般内科	25,050	25,373	27,957	一般内科	18.8%	19.1%	20.8%	
	呼吸器内科	17,068	15,787	17,540	呼吸器内科	12.8%	11.9%	13.1%	
	腎臓科	6,527	7,319	6,669	腎臓科	4.9%	5.5%	5.0%	
	循環器科	5,896	6,534	6,977	循環器科	4.4%	4.9%	5.2%	
	神経内科	11,381	10,416	11,120	神経内科	8.5%	7.8%	8.3%	
	消化器・外科	15,000	16,595	15,830	消化器・外科	11.2%	12.5%	11.8%	
	呼吸器外科	4,783	5,407	4,052	呼吸器外科	3.6%	4.1%	3.0%	
	精神科	1,269	1,622	1,686	精神科	1.0%	1.2%	1.3%	
	脳神経外科	1,998	2,448	2,363	脳神経外科	1.5%	1.8%	1.8%	
	整形外科	12,710	11,418	10,161	整形外科	9.5%	8.6%	7.6%	
	泌尿器科	7,939	7,510	7,444	泌尿器科	6.0%	5.6%	5.5%	
	婦人科	3,462	3,307	3,258	婦人科	2.6%	2.5%	2.4%	
	耳鼻咽喉科	1,418	1,388	1,557	耳鼻咽喉科	1.1%	1.0%	1.2%	
	放射線科	76	17	36	放射線科	0.1%	0.0%	0.0%	
	歯科	0	0	0	歯科	0.0%	0.0%	0.0%	
	呼吸器科(結核)	18,539	17,807	17,526	呼吸器科(結核)	13.9%	13.4%	13.1%	
	小児科	286	0	0	小児科	0.2%	0.0%	0.0%	
	合計	133,402	132,948	134,176	合計	100.0%	100.0%	100.0%	
	外来	内科				内科			
一般内科		50,131	48,345	48,250	一般内科	27.3%	26.7%	27.3%	
呼吸器内科		14,441	13,559	13,599	呼吸器内科	7.9%	7.5%	7.7%	
腎臓科		8,059	8,879	8,012	腎臓科	4.4%	4.9%	4.5%	
循環器科		9,083	9,337	9,041	循環器科	4.9%	5.2%	5.1%	
神経内科		10,307	10,357	9,700	神経内科	5.6%	5.7%	5.5%	
消化器・外科		23,270	22,958	21,999	消化器・外科	12.7%	12.7%	12.4%	
呼吸器外科		2,077	1,939	1,971	呼吸器外科	1.1%	1.1%	1.1%	
精神科		4,942	5,100	5,602	精神科	2.7%	2.8%	3.2%	
脳神経外科		2,999	3,331	3,608	脳神経外科	1.6%	1.8%	2.0%	
整形外科		20,615	18,140	18,123	整形外科	11.2%	10.0%	10.2%	
泌尿器科		10,932	11,673	12,187	泌尿器科	5.9%	6.4%	6.9%	
婦人科		10,933	11,378	11,331	婦人科	6.0%	6.3%	6.4%	
耳鼻咽喉科		9,782	9,715	10,053	耳鼻咽喉科	5.3%	5.4%	5.7%	
放射線科		2,374	1,883	855	放射線科	1.3%	1.0%	0.5%	
歯科		406	366	385	歯科	0.2%	0.2%	0.2%	
呼吸器科(結核)		3,389	4,083	2,155	呼吸器科(結核)	1.8%	2.3%	1.2%	
合計		183,740	181,043	176,871	合計	100.0%	100.0%	100.0%	

井田病院の患者数は、延入院患者数において横ばいで推移し、延外来患者数はわずかながら減少した。

診療科目別に見ると、入院に関しては患者数の構成比率に顕著な変動は見られないが、整形外科、泌尿器科、婦人科、呼吸器科(結核)では減少傾向にある。

一方、延外来患者数については、井田病院の患者数の大きな割合を占める内科において平成8～10年度にかけて毎年約2,000人ずつ減少している。

患者年齢分析

表 -13 「川崎病院 井田病院入院患者年齢割合」

川崎市提供資料より作成：一定期間における患者統計資料から割合を算出
割合算出対象患者数：入院川崎2,531人、入院井田3,517人

入院患者 比率	患者年齢層	0	1~6	7~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~66	67~69	70以上	計
	川崎病院	11.10%	3.08%	0.75%	2.57%	13.04%	6.01%	10.83%	8.42%	8.85%	6.44%	9.28%	19.64%	100.00%
高齢者からの累積割合	100.00%	88.90%	85.82%	85.07%	82.50%	69.46%	63.45%	52.63%	44.21%	35.36%	28.92%	19.64%		
井田病院			0.23%	0.63%	5.80%	2.30%	12.23%	15.64%	13.39%	6.85%	5.54%	37.39%	100.00%	
高齢者からの累積割合			100.00%	99.77%	99.15%	93.35%	91.04%	78.82%	63.18%	49.79%	42.93%	37.39%		

表 -14 「川崎病院 井田病院外来患者年齢割合」

川崎市提供資料より作成：一定期間における患者統計資料から割合を算出
割合算出対象患者数：入院川崎2,531人、入院井田3,517人

外来患者 比率	患者年齢層	0	1~6	7~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~66	67~69	70以上	計
	川崎病院	1.78%	5.83%	1.21%	3.05%	8.01%	8.93%	9.08%	16.70%	10.71%	5.04%	7.24%	22.43%	100.00%
高齢者からの累積割合	100.00%	98.22%	92.39%	91.17%	88.12%	80.12%	71.19%	62.11%	45.42%	34.71%	29.67%	22.43%		
井田病院		0.34%	0.20%	0.83%	3.44%	5.13%	8.77%	16.66%	12.72%	5.79%	9.20%	36.92%	100.00%	
高齢者からの累積割合	100.00%	100.00%	99.66%	99.46%	98.63%	95.19%	90.06%	81.29%	64.63%	51.91%	46.11%	36.92%		

川崎、井田両病院の外来、入院患者の年齢層を比較すると、井田病院は65歳以上の高齢者に強く偏っている（川崎市の統計方法により、65歳以上は階級の区分年齢が異なる）。井田病院は外来患者、入院患者においても65歳以上患者の割合は約50%に達する。70歳以上の老人保健法適用者の割合も約4割を占めている。これらは井田病院が成人病や緩和ケア医療等に力を入れている結果であると考えられる。

それに村し川崎病院は、65歳以上の高齢者が多いのは同様であるが、20歳～65歳までの層を広く厚く患者として集め、0歳～10歳の層にも患者分布の山ができています。川崎病院の患者年齢層は比較的まんべんなく集まっていることが分かる。これらは小児科や産婦人科の診療科目によるところが大きいですが、多くの住民に利用されているということがうかがえる。

入院患者と外来患者の年齢層割合を比べると、井田病院はほとんど変わらないが、川崎病院は入院患者で0歳と20歳～29歳が高くなっている。これは小児科、産婦人科が川崎病院にあるためと思われる。

患者居住地分析

< 地域別新患外来・入院患者数 >

表 -15 「川崎病院 地域別患者数」

川崎病院

人員数

地区名	平成8年度 外来	平成8年度 入院	平成9年度 外来	平成9年度 入院	度 外来	度 入院
川崎	15,898	3,928	16,502	3,811	20,733	4,164
幸	5,927	1,381	6,076	1,364	6,743	1,416
中原	992	168	985	201	975	219
高津	438	70	454	67	375	79
宮前	341	50	362	63	330	82
多摩	300	46	303	44	270	40
麻生	107	19	114	19	96	21
横浜	9,078	1,877	9,250	1,849	9,082	1,986
東京	2,786	390	2,790	428	2,418	410
その他	3,886	764	3,990	743	4,127	834
計	39,753	8,693	40,826	8,589	45,149	9,251

割合

地区名	平成8年度 外来	平成8年度 入院	平成9年度 外来	平成9年度 入院	度 外来	度 入院
川崎	39.99%	45.19%	40.42%	44.37%	45.92%	45.01%
幸	14.91%	15.89%	14.88%	15.88%	14.93%	15.31%
中原	2.50%	1.93%	2.41%	2.34%	2.16%	2.37%
高津	1.10%	0.81%	1.11%	0.78%	0.83%	0.85%
宮前	0.86%	0.58%	0.89%	0.73%	0.73%	0.89%
多摩	0.75%	0.53%	0.74%	0.51%	0.60%	0.43%
麻生	0.27%	0.22%	0.28%	0.22%	0.21%	0.23%
横浜	22.84%	21.59%	22.66%	21.53%	20.12%	21.47%
東京	7.01%	4.49%	6.83%	4.98%	5.36%	4.43%
その他	9.78%	8.79%	9.77%	8.65%	9.14%	9.02%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

出所)川崎病院病院年報

川崎病院における患者の地域別分布をみると、市外の横浜市、東京都、その他からの患者数が35%近く占めているのが特徴的である。これは川崎市の地形が東京と横浜に挟まれる形で細長い形をしていることと、川崎病院の立地する川崎区は鉄道、道路等交通網も非常に整備されている地区であるため横浜、東京在住者にとって地理的、時間的に近い病院であるからと推測される。

川崎病院について、市内での患者の分布を見ると、当然のことながら川崎病院に近い区の患者割合が高く、離れると低くなる。特に中原区より北西に位置する区に関しては、入院、外来含め1%以下の割合である。これは前述の通り、川崎市の地形的な問題と、川崎市の北西地域と南西

地域間の交通網の整備度合いに要因があると考えられる。

経年変化を見てみると、平成10年度から患者人数が外来、入院ともに伸び、また川崎区からの患者数の伸びが顕著である。

表 -16「井田病院 地域別患者数」

井田病院

人員数

地区名	平成8年度 外来	平成8年度 入院	平成9年度 外来	平成9年度 入院	度 外来	度 入院
川崎	333	133	313	143	270	156
幸	851	374	792	382	1,073	388
中原	2,428	877	2,337	951	3,280	989
高津	1,800	581	1,937	620	2,343	564
宮前	753	178	788	178	688	181
多摩	237	64	170	48	155	59
麻生	123	29	85	18	63	22
横浜	4,072	1,179	3,931	1,183	4,361	1,384
東京	633	83	523	92	265	136
その他	611	123	527	97	242	110
計	11,841	3,621	11,403	3,712	12,740	3,989

割合

地区名	平成8年度 外来	平成8年度 入院	平成9年度 外来	平成9年度 入院	度 外来	度 入院
川崎	2.81%	3.67%	2.74%	3.85%	2.12%	3.91%
幸	7.19%	10.33%	6.95%	10.29%	8.42%	9.73%
中原	20.51%	24.22%	20.49%	25.62%	25.75%	24.79%
高津	15.20%	16.05%	16.99%	16.70%	18.39%	14.14%
宮前	6.36%	4.92%	6.91%	4.80%	5.40%	4.54%
多摩	2.00%	1.77%	1.49%	1.29%	1.22%	1.48%
麻生	1.04%	0.80%	0.75%	0.48%	0.49%	0.55%
横浜	34.39%	32.56%	34.47%	31.87%	34.23%	34.70%
東京	5.35%	2.29%	4.59%	2.48%	2.08%	3.41%
その他	5.16%	3.40%	4.62%	2.61%	1.90%	2.76%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

出所) 井田病院病院年報

井田病院における患者の地域別分布をみると、外来、入院とも市外の横浜市、東京都、その他の患者数が35%、40%を占めている。とくに横浜市からの患者は35%弱を占めており、これは川崎市のどの区よりも多くなっている。

これは井田病院の立地が横浜市との隣接地にあること、最寄り駅(日吉)が横浜市にあること、川崎市からの交通手段が不便であることが要因であると考えられる。

市内からの集患状況は、立地している中原区が一番多く、ついで隣接区の高津区、幸区となっている。北部の多摩区、麻生区からは川崎病院同様ほとんど集患できていない。これも川崎市の

地理的、交通網的要因によるものであると推測される。

経年変化を見てみると、平成10年度に中原区からの外来患者が大きく増加している、同様に横浜市、高津区、幸区でも外来患者の伸びが見られ、近隣地域からの集患力が上昇している。入院患者については、中原区、幸区は増加しているが、高津区では若干減少している。

井田病院における周辺区からの入院患者数の増加は、平成10年度にかわさき総合ケアセンターが開設されたことによる影響があると考えられる。

以 上